

課題名

42. ナシの夏季新梢管理法

成果の概要

夏季の新梢管理が果実肥大や花芽の着生などに及ぼす影響について明らかにするため8年生幸水を供試し、6月下旬に芽かき及び誘引処理を行う区を設定した。

- (1) 果実は無処理区に比べ、芽かき、誘引両区とも大きかった。また、芽かき、誘引によって新梢長、新梢数とも少なくなる傾向にあった。花芽着生率は誘引区が優れていた。
- (2) 花芽の着生を短果枝、腋花芽毎にみると、短果枝は前年度に比べ誘引区で増加したが、芽かき区、無処理区では変わらなかった。腋花芽はいずれの区でも増加したが、特に誘引区で顕著であった。
- (3) 落葉数は全期間を通じ、芽かき、誘引区が無処理区よりも少なかった。
- (4) 樹冠下の相対照度は晴天、曇天いずれの日も芽かき区が最も明るく、次いで誘引区、無処理区の順であった。

成績

表1 夏季管理の違いが果実品質及び新梢の資質に及ぼす影響

処 理	果 実 品 質			新 梢			
	果実重	果皮色	長 さ	基部径	発生密度	発生角度	花芽着生率
	(g)		(cm)	(mm)	(本/m ²)	(度)	(%)
芽かき	301.6	3.2	67.6	10.1	12.6	69.5	9.9
誘 引	296.8	3.1	74.5	10.7	12.1	51.3	29.3
無処理	212.1	3.2	79.9	10.4	17.0	74.8	11.8

概要

表2 夏季管理の違いが花芽の着生に及ぼす影響

処 理	短 果 枝		腋 花 芽	
	89 年	90 年	89 年	90 年
	(個/m ²)		(個/m ²)	
芽かき	18.9	17.7	3.1	22.4
誘 引	20.9	26.1	11.6	61.4
無処理	16.4	16.6	10.1	30.2

注) 89年の調査月日：3月14日(せん定後)

成

表3 夏季管理の違いが樹冠下
相対照度に及ぼす影響

処 理	晴天日	曇天日
	(%)	(%)
芽かき	16.2	29.3
誘 引	14.9	24.9
無処理	12.9	20.9

表4 夏季管理の違いが芽の大きさに
及ぼす影響

処 理	花 芽		葉 芽	
	横 径	縦 径	横 径	縦 径
	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)
芽かき	5.5	12.6	4.9	11.3
誘 引	5.2	11.9	4.5	9.4
無処理	5.3	12.3	4.2	10.0

績

概

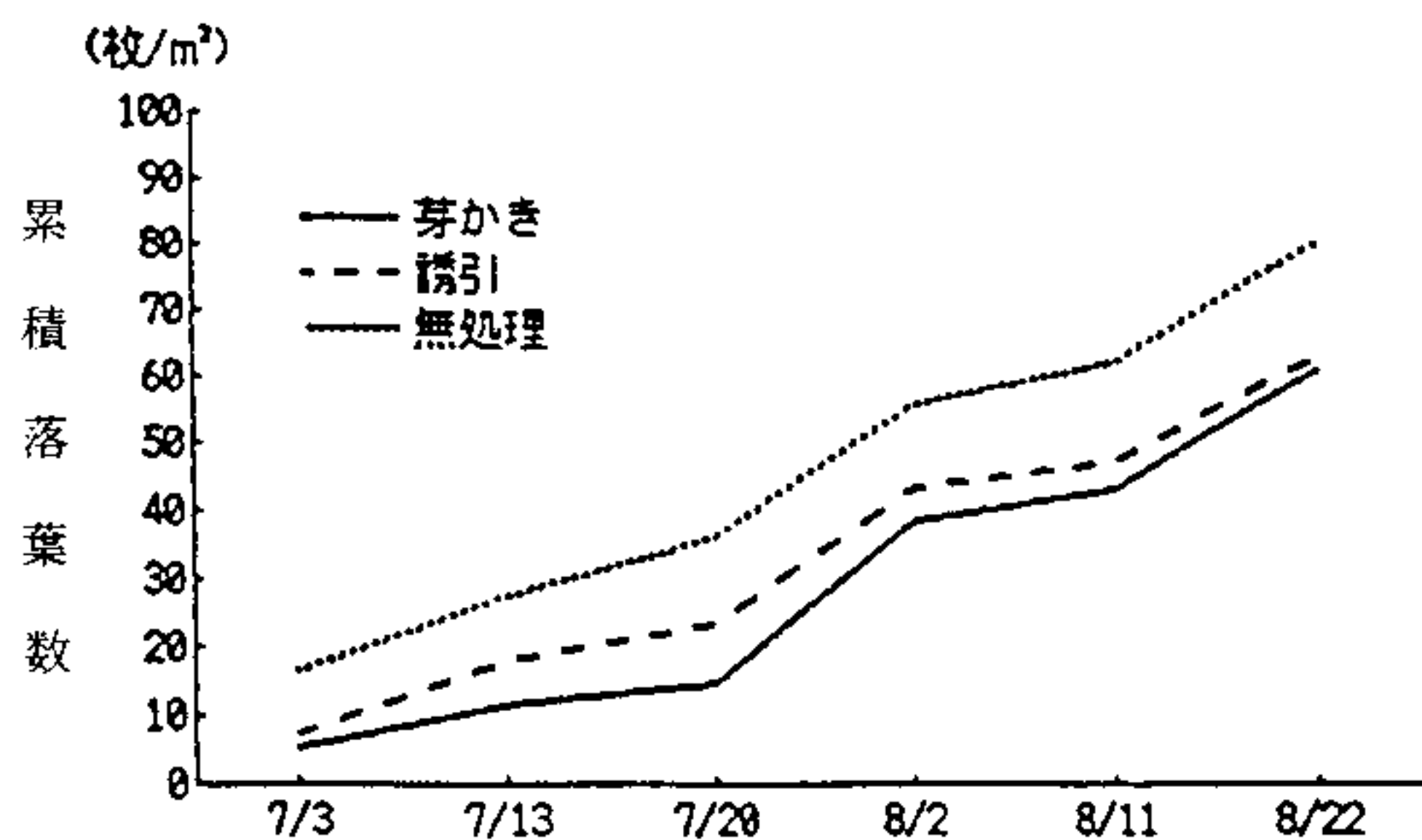


図1 夏季管理の違いが累積落葉数に及ぼす影響

要

(果樹試験場)

普及上の留意点